写真8. 1号竪穴建物跡（SI01） L字形カマド全景 南→

写真9. 2号竪穴建物跡（SI02）検出状況 北東→

写真10. 中央柵列（SD02）検出状況 南東→

写真11. 西柵列（SA01）検出状況 南西→

写真12. 北柵列（SA02）検出状況 北→

写真13. 北柵列（SA02）断面確認状況 北西→

写真14. ピット列（手前）検出状況 南西→

令和６年度 史跡北谷遺跡
発掘調査報告会資料

令和６年11月17日発行
高崎市教育委員会文化財保護課

令和６年11月17日（日）
＠高崎市市民活動センター・ソシアス

令和６年度 史跡北谷（きたやつ）遺跡発掘調査報告会

（１）令和５年度調査の概要

【R5-1T】・竪穴建物跡（SI01） ⇨ 約13m四方の大型竪穴建物跡で、床面直上にHr-FA(5世紀末～6世紀初頭に噴火した榛名山火山灰)の一次堆積層が堆積。西壁でカマドを確認。

・西柵列（SA01） ⇨ 幅80cm×深さ120cmの溝状の掘り込みを布掘りとした柵列状の遺構。

（２）令和６年度の検出遺構

【R6-1T】・竪穴建物跡（SI02）の検出 ⇨ 南北軸で約７m、遺構確認面から50cmほどで床面。埋土にHr-FAブロックを含む。

・中央柵列（SD02）の検出、外周柵列（北柵列：SA02）の検出

・ピット列（Pit01・02）の検出

・溝２条（SD01・03）

【R6-2T】・外周柵列（西柵列：SA01）の北側の確認、盛土層断面観察

【R6-3T】・竪穴建物跡（SI01）のカマド ⇨ 県内２例目となるＬ字形カマド

（３）調査成果

①竪穴建物跡（SI01） ⇨ カマドがＬ字形であることを確認(写真2・8)、規模や形状など基本構造を把握。カマド本体部分や煙道の残存状況は比較的良好。全国的にも５世紀後半のＬ字形カマドの確認は少なく希少な事例となる。

②竪穴建物跡（SI02） ⇨ 比較的大型の遺構。埋土にHr-FAブロックを含む(写真9)。Hr-FA降下前後の遺構動向を推察する資料として期待できる。

③中央柵列（SD02） ⇨ 柱痕跡と想定できるピット複数を検出した。溝は布掘り構造の柱掘り方。居館本体の中央やや南寄りで東西に走向、南北に区画する中央柵列か(写真3・10)。

④西柵列（SA01） ⇨ 昨年度調査成果と地中レーダー探査(GPR)成果から想定した位置で検出。布掘りを伴う溝状遺構を検出、前年度検出の西柵列と同一遺構と認定(写真7・11)。

⑤北柵列（SA02） ⇨ 居館本体北側を東西走向するGPR反応から北柵列を想定。盛土層を掘り込む布掘り溝を検出(写真5・12・13)。

⑥ピット列（Pit01/02） ⇨ 北柵列の南側に東西方向に並ぶ２基のピットを検出(写真4・14)。多重の外周柵列もしくは掘立柱建物等の構造物の可能性。

（４）まとめ

令和６年度の調査成果は、中央柵列ならびに西・北の各外周柵列の検出により、三ツ寺Ⅰ遺跡同様に居館本体を囲繞する柵列や内部を区画する柵列が北谷遺跡にも存在することを明確にしたと評せる。

また、GPR反応の解析から想定した位置で各柵列や竪穴建物跡を検出した成果によってGPRの信頼性が高まったと言え、未調査区域の遺構を想定する上でGPRが有用であることを裏付けた。

写真1. 北谷遺跡 令和６年度調査区全景 南西→

写真 6.　盛土層断面確認状況

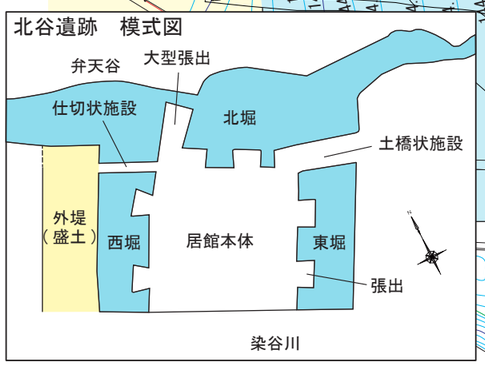
写真 5.　北柵列（SA02）断面確認状況

写真 4.　ピット列（Pit01・02）検出状況

写真 3.　中央柵列（SD02）検出状況

写真 7.　西柵列（SA01）断面確認状況

写真 2.　１号竪穴建物跡（SI01）Ｌ字形カマド検出状況



北柵列
SA02
Pit01
Pit02
ピット列
盛土断面
SA01
【R6-2T】
【R6-1T】
西柵列
SD01
SD02
SD03
SI02
中央柵列
竪穴建物跡
SI01
竪穴建物跡
Ｌ字形カマド
【R5-1T】
【R6-3T】
SA01

令和６年度調査区
令和５年度調査区

0　1:500　25m

北谷遺跡全体図